

未来への協働

ニュースレター No.18

<https://kyodomirai.org>



2026 年 7 月 1 日 (水)

発行 未来への協働

〒 577-0023

大阪府東大阪市荒本 2 - 14 - 5

電話 / FAX (06) 4306 - 3512

郵便振替 00940 - 8 - 213061

Email : miraihenokyodo@gmail.com

毎月 1 日発行 頒価 200 円 (送料別)



降りしきる雨の中 1100 人が参加した「原発のない明日を！ 全国集会 in おおさか」= 6 月 7 日、大阪市

戦争反対！ 原発のない明日を！

福島第一原発の過酷事故から 15 年。事故後、政府はエネルギー基本計画に「原子力依存度を可能なかぎり低減する」という文言を盛り込んできた。しかし、昨年 2 月に発表された第 7 次エネルギー基本計画ではその文言が消え、原子力を再生可能エネルギーと共に「脱炭素効果の高い電源」と位置づけ、「最大限活用」へと大転換した。高市首相は「資源国に頭を下げる外交を終わらせたい」「エネルギー国内自給率 100% をめざす」と発言して、ナショナリズムをあおり原発拡大を推進している。

こうした中で、中部電力浜岡原発で耐震設計データのねつ造・改ざんが内部告発によって発覚した (1 月 5 日)。この問題が深刻なのは原子力規制委員会

が不正を見抜けず、中部電力が提出したねつ造データを「妥当」なものと判断していたことだ。

6 月 7 日、大阪市内で「原発全廃を勝ち取り、自然エネルギーのみで成り立つ社会を実現」(集会宣言) を掲げ全国集会が開かれた。降りしきる雨にもかかわらず、1100 人が参加した。集会では弁護士の井戸謙一さんが浜岡原発のデータねつ造事件を取り上げ、「いつ大事故が起こってもおかしくない」「原発をなくす力の基本は市民運動の力」と訴えた。「原発いらね！ ふくしま女と仲間たち」の黒田節子さんは、原発事故は「極悪非道の人災」であり、政府が進める「福島復興」がふたたび命を踏みにじっていると怒りを込めて訴えた。(香月)

6月7日、大阪市内で開かれた「原発のない明日を！ 全国集会 in おおさか」から、井戸謙一さん（弁護士）、石地優さん（原子力発電に反対する福井県民会議）、黒田節子さん（原発いらね！ ふくしま女と仲間たち）の発言を紹介します。（文責・編集部）

浜岡データねつ造事件 を脱原発の突破口に

井戸謙一さん（弁護士）

今、原発をなくす運動には逆風が吹いています。政府は原発の最大限利用に舵を切り、2040年代に最大5基を建て替えると言いました。



原発利用政策の「3つの神話」

原発最大限利用政策のテコになっているイデオロギーが3つあります。1つは、「原発必要神話」です。電力供給のために必要だというのですが、資源エネルギー庁の2030年代の電力需要の見通しでも、今よりもせいぜい5%増える程度です。2つ目が、新「原発安全神話」です。日本の新規制基準は世界一厳しい基準だから、これに適合した原発は安全だということです。これは嘘っぱちです。日本の新規制基準よりも厳しい基準は外国にいくらでもあります。そして3つ目が「被ばく安全神話」です。「原発が万が一事故を起こしても放射能を怖がる必要はない」「福島であれだけの事故が起こったのに、住民の健康被害はゼロだった」というのです。政府は福島の子どもたちから400人を超える甲状腺がん患者が出て、原因が被ばくであるとは頑として認めません。

しかし、事態は政府や原子力村の思うようには進みません。それが浜岡データ不正事件です。原発を襲うと考えられている最大の地震動（基準地震動）は、特定の活断層が動いたときに、原発の敷地がどれだけ揺れるかということを経験して判断しなければなりません。中部電力が採用したのは統計的グリーン関数法で、全国の過去の地震データを集め、その平均値を採用するというものでした。中部電力は

「ランダムに選んだ20の地震波の平均を採用した」と言いながら、実際には都合のいい平均波を先に決め、それが平均になるように他の19波を選んでいた。あるいは、「20波の組み合わせ」を多数作り、その中から、最も都合のいい平均波なる「組み合わせ」を選んで、規制委員会に提出していたのです。

不正を見抜けなかった原子力規制委

原子力規制委は、これは前代未聞のねつ造事案であると激怒しており、浜岡3・4号機の適合性審査は最終的に不許可になる可能性さえあります。しかし不正をした中部電力よりも深刻なのは、規制委がこの不正を見抜くことができず、ねつ造された基準地震動を「妥当」と判断・評価していたことです。事件は内部告白によって判明しましたが、それがなければ、不正は明らかにならなかったのです。

なぜ規制委は不正に気づけなかったのか。それは規制委の審査が、一次データの選択や評価の妥当性までチェックする仕組みになっていないからです。規制委が電力会社に提出を求めるのは、一次データではなく、一次データを電力会社が評価した結果だけなんです。他の電力会社も同様の不正をしている可能性は十分にありますが、規制委は電力会社をチェックする姿勢を見せていません。

最近の原発差し止め訴訟は、連戦連敗で、裁判所の原子力規制委員会に対する「厚い信頼」を示す判決・決定が目立つようになっています。しかし浜岡事件で、原発の安全確保の根底である一次データの選択・評価について、規制委が何らチェックをしていないことが明らかになりました。そんな適合判断に高い価値を認めることはできるでしょうか。

いつ大事故が起きてもおかしくない

浜岡事件は、原発差し止め訴訟の今の流れを変える可能性があります。原発に未来はありません。六ヶ所の再処理工場は稼働できず、使用済み核燃料の行くあてがなくなります。福島原発事故から15年が経過し、再稼働を果たした原発は今15基です。スリーマイルから6年でチェルノブイリが起り、チェルノブイリから25年で福島が起りました。福島から15年が経ちました。そして戦争で原発が攻撃される時代にまでなりました。いつ大事故が起こってもおかしくありません。訴訟の場で、市民運動の場で、粘り強く運動を続ける必要があります。

乾式貯蔵を止めて 原発を止める

石地優さん（原子力発電に反対する福井県民会議）

使用済み燃料の貯蔵場所がなくなれば、原発の運転を進めることはできません。使用済み核燃料の置き場であるプールがいっぱいになれば原発は止まります。福井県の使用済み核燃料の状況はどうなっているかというと、関電の原発と敦賀原発（日本原電）に溜まっている使用済み核燃料は4600トンです。そのうち関電が3970トンです。電事連（電気事業連合会）の発表では使用済み核燃料の貯蔵率は89.2%です。つまりもう9割方です。このまま進んでいったら、あと数年で自動的に原発は止まるという状況です。

関電が提示した「ロードマップ」

関電は福井県に対して「使用済み燃料対策ロードマップ」を提示しています。その中で、「六ヶ所再



処理工場に搬出する」「中間貯蔵施設に搬出する」「フランス国へ一時的に搬出する」「乾式貯蔵施設を作って、そこに使用済み核燃料を入れる」という4つの対策を示しています。はじめの3つは実現性がありません。関電が一番あてにしているのは乾式貯蔵施設です。福井県が「使用済み核燃料は県外に」という立場ですので、今まで関電は「原発構内に乾式貯蔵施設を作る」とは言えませんでした。それを堂々と言い出したのが、このロードマップです。逆に考えれば、乾式貯蔵施設を稼働させなければ原発は止まります。原発反対の首長を誕生させなくても、それから住民投票で勝たなくても、裁判で勝たなくても、乾式貯蔵施設さえ稼働させなければ原発は止まります。これが今日、皆さんに一番伝えなかったことです。

戦時に原発は狙われる

戦争時には原発は狙われます。「原発の最大限活用」というのであれば、日本は平和外交に努力せなあかんの、軍備拡張して戦争に進んでいるというのは異常事態です。多くの国民に「今、原発を動かすというのは最悪の選択ですよ」ということを広めたいと思います。

命踏みつける 「福島復興」の欺瞞

黒田節子さん（原発いらね！ふくしま女と仲間たち）

地元の仲間が放射線量を測っています。5年ごとに同じところを。「除染の効果はないんじゃないか」「この高レベルの放射能をどうするのか」と彼は叫んでいます。



大型化・機械化・ロボット化と移住促進

浪江町にこの春から超大型の畜産牧場が稼働しました。25ヘクタール、ホルスタイン2000頭。ロボット利用で50頭同時搾乳。未来型最先端酪農。これでいいんでしょうか。何でも大型化、機械化、ロボット化。優しい目をした牛さんたち、一生ロボット工場から出られない牛たちが人間に逆襲する時

がやってくるんじゃないか。私はいつも悪い夢を見えています。

「移住はロックだ！」（※注）と、子育てに手厚い補助金、制服や給食まで無料というところも。「5年住めば家が建つ」と言われています。放射能のことを知らされていない新住民が、原発立地町村で3000人以上増えています。すべては利権・お金。それらときっぱり対峙して、命と未来への責任を追求していく必要があると思っています。水俣と福島、どちらも極悪非道の人災です。しかし希望はあります。全国各地で若い人が立ち上がっています。高市政権を一日も早く追放しましょう。

「歩く風評加害者」と呼ばれます。いいじゃないですか。命を最優先することが「非国民」って言うんだったら。原発やめろ！ノーモア・フクシマ！

（※注）「移住はロックだ！」 原発事故により避難指示等の対象となった12市町村への移住・定住促進を目的に2021年に設置された「ふくしま12市町村移住支援センター」が、昨年10月、南相馬市で共催したロックフェスのキャッチフレーズ。

トマホーク配備に反対 舞鶴市内でピースアクション

政府は海上自衛隊舞鶴基地に配備されているイージス艦 2 隻に、巡航ミサイルトマホークの配備を計画している。5 月 31 日、舞鶴市内で「トマホークミサイルは必要ですか？ 5・31 ピースアクション in 舞鶴」(写真右) が開かれ、晴天の下、2800 人が参加した。

舞鶴基地に向かって抗議

午前 11 時半から海上自衛隊舞鶴基地を取り囲むヒューマンチェーンとスタンディングが五つのゾーンに分かれて行われた。驚いたことは、この日、基地に停泊している自衛隊艦船は 1 隻もなく、基地内だけでなく市内でも制服の自衛隊員の姿が見えなかった。地元の住民もこんなことは初めてだという。普段の日曜日は観光客の車で満杯になる「舞鶴赤れんがパーク」の駐車場もガラガラ。自衛隊員や観光客がピースアクションに接触しないように「対策」がとられたのではないかと思います。

全国から基地強化反対の訴え

ヒューマンチェーンの終了後、舞鶴市総合文化会館と隣接する前島みなと公園の 2 カ所でトマホークミサイル配備に反対する集会が開かれた。発言は宮古島の清水早子さん、沖縄の三上智恵さん、大分の池田年宏さん、熊本の海北由希子さん、広島の新



田秀樹さん、京丹後の永井友昭さん、祝園の呉羽真弓さん、岐阜の近藤ゆり子さん、愛知の山本みはぎさん、静岡の竹内康人さん、横須賀の木元茂夫さん等々。地元舞鶴からの発言など、全国で多くの人々が戦争と基地に反対し、連帯して闘っていることを実感できる集会だった。

米兵も「イラン戦争反対」

三上智恵さんが「辺野古で高校生が亡くなったことは大変痛ましい。責任転嫁と言われるので誰も言っていないが、近くにいた海保はなぜすぐに助けに来なかったのか」と疑問を呈した。

また横須賀でのスタンディングの最中に、米軍基地から出てきた米兵が「私もイラン戦争には反対だ」と話しかけてきたという。昨秋、京都府精華町で開かれた祝園ミサイル弾薬庫反対集会に続いて、高市政権の戦争準備に反対する集会を今後も盛り上げていきたいと思った。(塚本)

斎藤知事は辞める 第三者委員会を置くべきだ

「斎藤、辞めろ！」の兵庫県庁ヒューマンチェーンが 6 月 9 日、知事室がある兵庫県庁 2 号館前で行われた。今回で第 11 波。「斎藤知事の減給案件(67 号議案、幕引き案件)は継続審議になった」と傍聴者から報告があり、参加者から拍手があがった。

私もリレートークで発言、「80 の大企業が、内部通報の窓口を企業外の第三者委員会においている。東京証券取引所が上場規定に、窓口を企業外に置

くべきとしているからだ。47 都道府県中 37 県が、第三者委員会を県庁の外に置き、知事や県上層部の圧力を排している。兵庫県庁は全国でも非常に遅れた、いわば闇県庁だ。内部告発者を保護する法律に公益通報者保護法がある。同法は地方公共団体の職員も対象である。兵庫県が、法律に基づく制度を整えていれば、職員が自死することは避けられたはずだ。奥山俊宏・上智大教授は著書『兵庫県告発文書問題、なぜ日本を揺るがすのか』(岩波書店)で、『独裁者(知事)が、反乱者(元県民局長)を粛清した』と批判している」と。検察審査会は、起訴相当の判断を下せ。(石田)

狭山再審を求めて 神戸市内で「座り込み行動」

今から 63 年前の 1963 年 5 月 23 日は、当時 24 歳だった石川一雄さんが逮捕された日である。警察は石川さんを埼玉県狭山市で発生した女子高校生誘拐殺人事件の犯人にデッチ上げるために別件で逮捕したのだ。地域住民の「あんなことするのは部落民にちがいない」という差別意識やマスコミの差別報道のなかで生み出されたえん罪だった。

一審は死刑、二審は無期懲役で 1977 年に無期懲役判決が確定。無実を訴え続けてきた石川一雄さんは、第 3 次再審請求中の 2025 年 3 月 11 日、86 歳で亡くなった。石川さんの死後、妻の早智子さんを請求人とする第 4 次再審請求が闘われている。

毎年、5 月 23 日前後には全国各地で石川さんの再審無罪を勝ちとるための行動が取り組まれている。今年も狭山事件の再審を求める市民の会・こうべの呼びかけで、神戸市の JR 元町駅前で「座り込み行動」が取り組まれた（5 月 24 日、写真右上）。参加した 30 人の市民らはチラシの配布、署名の呼びかけ、マイクアピールで市民に石川さんの再審無罪を訴えた。

第 4 次再審請求で三者協議

第 4 次狭山再審請求をめぐっては、新しく着任した東京高裁の前田巖裁判長のもと、5 月 19 日に三者協議が開かれた。7 月に弁護団が、前田裁判長に対しプレゼンテーションを行う。前裁判長のもと、検察側は 3 月 31 日に第 4 次再審についての意見書を提出している。弁護団のプレゼンを受けて、裁判所が専門家による鑑定結果などの証拠調べをおこなうかどうかという大きな山場をむかえている。5 月 23 日に東京・日本教育会館で開かれた狭山事件の再審を求める市民集会は 1000 人近い市民が参加し、再審を求め集会とデモをおこなった。

再審法改正 検察抗告の全面禁止を

政府は 5 月 15 日、再審制度を見直す刑事訴訟法改正案を閣議決定し、国会に提出した。改正案では検察の抗告は「原則禁止」となっているが、「根拠」があれば抗告できることになっている。証拠開示に



ついても制限が設けられ、無罪になる証拠が埋もれる恐れがある。開示された証拠の公開には「目的外使用」禁止になっている。えん罪被害者の救援・支援ができなくなる可能性があるなど、政府の改正案には問題点が多い。国会の会期末（7 月末）までに法案の修正、抗告の全面禁止と全証拠の開示を求めているかなければならない。中道改革連合、チーム未来、共産党の 3 党が昨年廃案となった議員立法と同一内容の改正案を衆議院に提出している。

「座り込み行動」では、石川さんの無念を晴らすために、今後も狭山再審をめぐる動き、再審法の改正の国会審議に注目し、行動していくことが確認された。（高崎）

朝鮮半島に平和と統一を 第 29 回統一マダン神戸が開催

「朝鮮半島に平和と統一を！」「出会いが理解を！」「理解が平和を！」「ともに作り出そう！子どもたちの未来を！」と第 29 回統一マダン神戸が開催された（6 月 7 日、JR 兵庫駅前広場）。



（6 月 7 日、JR 兵庫駅前広場）。

労働組合の仲間と共に、ブースを出店して参加した。韓国から 6・15 市民合唱団が 30 人参加。在日の組合員が合唱団員と楽しく歓談していた。油ソーメンのシェフは沖縄 2 世の組合員で見事な手さばき。ブースは終始にぎわった。朝鮮歌舞団の踊り（写真上）にはうっとり見とれてしまう。子どもたちの元気な踊りに大きな拍手が湧いた。国際連帯フェスティバルの楽しい 1 日になった。（啓）

いま学校では



増え続ける 「非正規」教員

文部科学省が 2026 年に公表した『「教師不足」に関する実態調査』によると、全国の公立学校における非正規教員の割合は 17.82%であった。およそ 5～6 人に 1 人が「非正規」の教員ということになる。なぜ公立学校の非正規化が、これほどまで急激に進んできたのか。その背景には、教員の雇用をめぐる制度的・構造的な変化がある。

最も大きかったのは、2004～2006 年にかけて進められた小泉内閣の「三位一体改革」だ。「国庫補助負担金改革」「税源移譲」「地方交付税の見直し」の三つを一体として進められたこの改革では、「4 兆円分程度の国庫補助負担金の廃止・縮減」が方針として掲げられ、その標的とされたのが義務教育費国庫負担金であった。

「小泉改革」で自治体に押し付け

それ以前は、公立学校教員の給与は、国と都道府県が 2 分の 1 ずつ負担していたが、国の負担割合が 3 分の 1 に減らされた。残りの 3 分の 2 は、地方交付税交付金や税源移譲によって賄われるという理屈だが、実際にその財源が保障されるわけではない。結果として各自治体の教育財政の基盤は、極めて脆弱なものとなった。

正規教員の長期的採用計画を立てるのは、どの自治体にとっても容易なものではない。20 代前半の教員を採用すれば、40 年近くにもわたって雇用することになるが、その頃にどのくらいの数の学齢児童生徒がいるか、予測するのが難しいからだ。もし、急激な少子化によって教員が余るようなことがあっても、正規教員をリストラすることはできない。そのため一定数を非正規で雇い、いざという時のための「調整弁」としている側面がある。そして多くの自治体が、非正規教員の割合を増やし始めた。

多くの自治体が「非正規」化へ

小泉改革の暴挙は、これにとどまらない。2004 年度に、義務教育費国庫負担制度に導入された「総額裁量制」だ。国が支払う負担金の総額を超えない範囲で、各都道府県や政令指定都市が給与額や教員



配置を自由に決められるというものだ。それ以前は、公立学校教員の給与は国立学校教員の給与額に準拠され、どの自治体もほぼ変わりはなかった。しかし、この仕組みが改められ、各自治体が教員の給与額を自由に設定できるようになった。その結果、多くの自治体が教員の給与を削減し、浮いた財源で教員の数を増やし、少人数学級や特別支援学級を設置するようになったのだ。これにより、非正規教員が激増することとなった。

これに先立ち、2001 年に義務標準法改悪、通称「定数崩し」が行われた。現状、日本の公立学校は、小学校が 35～40 人に 1 学級、中学校と高校が 40 人に 1 学級で編制される。この計算式をベースに教員数が算出され、国の負担額（義務教育費国庫負担金）が決まる。この負担額は従前、常勤の職員にしか使えなかったが、担当授業のみ受け持つ非常勤講師を含めてよいことにした。例えば、正規教員 1 人分の授業を 3 人の非常勤講師で分割して受け持つような場合も、教員の給与額の一部を国が負担してくれるようになったのだ。その結果、多くの自治体が非正規教員を増やすことになった。

拡大する「教師不足」

このように 2000 年代前半から進められた「三位一体改革」「総額裁量制」「定数崩し」の三つの政策により、非正規教員は増え続けてきた。昨今、教育界では教師不足が大きな問題になっている。実はその元凶ともいえるのが、この非正規率の高さだ。これまで「調整弁」となっていた低賃金の非正規教員自体が減少し、正規教員を穴埋めできない状況に陥っている。教員不足の解決には、非正規化に歯止めをかけることに加え、非正規教員の給与増および待遇改善が強く求められる。(安芸一夫)

平和教育に歯止めをかける文科省に物申す！



近畿地方も梅雨入り、午前中は晴れていたのに、午後からは雨が降ってきた。「お母さんが、小学生の男の子に傘を持って迎えに行ったのだろう」という親子に、歩道で遭遇した。男の子が、私の前でいきなり傘を逆さまにし、先端を地面につけるくる回しだした。その仕草が面白く、立ち止まって微笑みながら見ていた。しばらくして、お母さんも微笑みながら「おじちゃんの邪魔になるから止めなさい」と言う。「いえいえ、大丈夫ですよ」と返事した。男の子は、お母さんに優しく諭されたので、くるくる回しを止めた。

昔のアメリカのミュージカル映画、『雨に唄えば』をご存じだろうか。主役のジーン・ケリーがどしゃ降りの中、傘をくるくる回したり、放り投げたり、受け止めたりしながら、歌い踊るシーンが秀逸な映画だ。男の子が『雨に唄えば』を知っているとは思えない。自分で傘をくるくる回すと面白いと考えたのだろう。子どもの自由な発想を認め、それがもし他人に迷惑になるならば、優しく諭す。これこそが「教育」だと思う。

では本題に入る。3月に起きた沖縄県辺野古沖のボート転覆は、非常に痛ましい事故だ。亡くなられたお二人の、冥福をお祈りする。ボートの運営団体と高校に、安全管理の徹底した改善が求められるのは、言うに及ばない。

しかし、この事故と結び付けるかたちで文部科学省が、高校が行っている平和学習を「政治的に偏っている」とし、高校を「教育基本法違反」と認定したことは、納得がいかない。ボートの運営団体は、辺野古新基地建設に反対する全ての政党や政治団体と繋がりがあるが、一政党とのみ関係しているわけではない。

さらに、「政治的中立」を言うならば、辺野古新基地建設に賛成する立場と、辺野古新基地建設に反対する立場の両方を教えるべきである。本土に居ては、反対の立場がわかりにくいことから、現地で学習するのは当然である。生徒たちに両方の立場を聞かせた上で、「あなたたちは、どう考えるか」とす

るのが中立だ。むしろ、それをさせようとしらない政府の方が中立性を欠いている。

子どもたちには、できるだけいろいろな考え方を知らせ、それを基にして大人の想像の及ばないような発想をして欲しいと願っている。私が、元教員だったから、特にそう思うのかもしれない。平和教育に歯止めをかける政府は、これに留まらず政府の政策に異を唱えるような教育は全て排除するだろう。そうなれば、想像力を持たない無表情な人間ばかりになるかもしれない。

以上のことから、文部科学省は先の高校に対し「教育基本法違反とした事を撤回する」と通知してほしい。(片岡英夫)

追記。雨続きで「うっとうしい」と思われたら、先の『雨に唄えば』を観るべし。

負けられない！ 9月沖縄県知事選 辺野古新基地反対 神戸で訴え

毎週土曜日の午後1時から2時までの1時間、神戸市中央区三宮のマリイ前で行われている「辺野古の海に基地をつくらせない神戸行動」。6月13日は快晴の下、18人が参加した。



ギターを弾く人、沖縄から三線を持参した人など。沖縄に移住した人が久しぶりに参加。マイクを使ったスピーチでは、「普天間基地の返還は大ウソ」「憲法の基本的人権がいちばん守られていないのが沖縄」「世界中が、コスタリカのように軍隊のない国に！」と口々にアピール。辺野古の事故で亡くなった女子高校生を悼み、三線を弾きながら『童神』を歌う人や「憲法9条」を朗読する人も。

中国人の若い女性は、「中国でも辺野古のことは報道されていますよ」と署名した。中年女性は、「沖縄には5回ほど行きました。あのような現状は許されません！頑張ってください」とエールを送ってくれた。9月13日投開票の沖縄県知事選(8月27日告示)は重要な選挙。「負キティナイビランドー！」勝つまで諦めない！

連載

高市総理、未来が壊れています④

「戦争が廊下の奥に…」

小林嘉直

九条も廊下に立てり令和夏 彦坂正孚
(太宰府市／5月24日、朝日歌壇)

高市政権のもとで憲法改悪論議が勢いを増している。緊急事態条項での「国会議員の任期延長」が議論となっているが、それが改憲の本当の焦点なのか。怒りがこみ上げ、頭を抱え込んでいた5月も6月に近づいたある日。新聞に目を通してしていると覚えのある一句が目飛び込んできた。この「九条も廊下に立てり令和夏」だ。

渡辺白泉という俳人がいた。彼は「戦争が廊下の奥にたつてゐた」と詠んだ。日中戦争開戦から2年後の1939年に詠まれた句である。まだ、太平洋戦争には突入しておらず、本土への被害はない。それでも日常に、戦争の影が次第に大きくなってくる時期だった。

「戦争が、立つ」

白泉は「戦争が立つ」と詠む。はっきりとものと言えない時代。戦争をも非難できず、まして肯定する人間すらいた、この時代。戦争への、そのものの非難として「戦争が立つ」としたのである。戦争への、まるごとを非難したのである。

戦争は、戦場にあるのではない。戦争をさせている元凶そのものは、この廊下の奥で会議をやっている「そのもの」にあるのだ。薄暗い廊下の奥に、突然「戦争が立っていた」…、恐ろしいことだ。1925年に制定された治安維持法は、対象が「共産主義者」から「京大俳句」関係者にも拡大され、弾圧が広がった。

ホワイトハウスではしゃぎ回った高市早苗・軍国少女が、「平和の使者」などとおだて上げたトランプは、モンロー主義をドンロー主義と言い換え、軍事外交、戦争外交、資源略奪外交として、イランを大規模に攻撃し、ベネズエラへ軍事介入、グリーンランド領有を言い、キューバへの介入、欧州同盟国への関税圧力など国際秩序をかき回している。とん

でもないことだ。

高市首相は、トランプに飼われている仔犬のごとくじゃれ合い、「理想の日本国を文字にして、歴史という書物の新たなページに刻もう」「そのページをめくるべきかどうか、国民に堂々と問おうで



竹内浩三(1921-1945) 前列左の人物

はありませんか」「立党から70年、時は来ました」と、自民党の党大会で改憲を言い放った。

2026年の初夏、この時に「九条が立つ」と詠まれた。九条が廊下の奥に立っているのだ。どう思う…。薄暗い廊下の奥でじっと見つめながら、近づいてくるのか。とんでもない、三角屋根の大きな頑丈な鉄扉に閉ざされた館で、「鶴」どもが集まり、いま吠えまくっているではないか。こちらまで聞こえる大きな声で、「九条」を吠えまくっているではないか。

曰く「国際正義」「共存共栄」

1940年、兵庫県但馬の出身の立憲民政党・斎藤隆夫衆議院議員は、2月帝国議会の衆議院本会議で、日中戦争に対する根本的な疑問と批判を提起した。「強者が興って弱者が亡びる。過去数千年の歴史はそれである」「ただいたずらに聖戦の美名に隠れて、国民の犠牲を閑却(かんきやく)(ほったらかしに)し、曰く国際正義、曰く道義外交、曰く共存共栄、曰く世界の平和、かくのごとき雲をつかむような文字を並べている」と…。

「戦争が立つ」ころに、妙に「国際正義」「道義外交」「共存共栄」「世界平和」が唱えられてきた。そのころ、竹内浩三という三重県・伊勢市出身の詩人は、『骨のうたう』を詠った。1942年9月に繰り上げ卒業され陸軍に入営、45年4月にフィリピンで戦死した。太平洋戦争での軍人、軍属の死者数は、およそ230万人、フィリピンでは50万人という死者数になった。

その地を無責任にも「絶対国防圏」などと定め、決戦までの時間稼ぎに送り込まれた捨て石が、竹内浩三をはじめとするフィリピンの戦死者である。補給路も断たれ、飢えながら各地で玉砕を重ね、山岳地に退却を重ねていった。フィリピンの民衆、街、村を蹂躪しながら …。

「ひょんと死ぬるや、あわれ」

『骨のうたう』の最初の一節に、「戦死やあわれ 兵隊の死ぬるやあわれ 遠い他国で ひょんと死ぬるや だまって だれもいないところで ひょんと死ぬるや …」、そして最後の節に「ああ 戦死やあわれ 兵隊の死ぬるや あわれこらえきれないさびしさや 国のため 大君のため 死んでしまうや その心や」(全文は、竹内浩三全集『骨のうたう』参照)と詠った。

短い、実に短い、断片的なことばが、強烈に意思を、思いを包み込ませながら一塊の洪水のごとく押しよせる。幾度となく、目をしばたかせた。しかし、己の目や鼻や、口までもが閉ざされ、藻掻(もが)き、苦しめられる。どうも、社会から、自分自身を切り離し、見捨てようとしていたのか。己の足場は何か、この社会そのものに居場所はあるか。人のつながり、居場所はあるのか。

知識としての戦争ではない、この戦争へ参加した先人の思いが先立ってくる。竹内浩三の『骨のうたう』は、戦地に向かうため入営するより前、彼が21歳の時に書いた。この詩には、声高な反戦も、まして勇ましい軍国主義でもない、ひとりの若き青年が素直に綴った詩である。

戦前を声高に断罪することも、戦後を再評価することにもうんざりしてきた。たったひとりで黙って向かい合う、自らの運命と戦後の有様を、なにかを予見する。この一編の詩が、私たちと今をつなぐ強い糸であって欲しい。そんなことを考える。

日本が見えているか

もう二編、竹内浩三の詩を紹介したい。『5月のように』と題された長編である。はじめの節句、「なんのために とにかく生きている とにかく どう生きるべきか それは どえらい問題だ それは一生考え考えぬいても、はじまらん 考えれば 考えるほど理屈が多くなり、こまる」と述べ、「青空のように 5月のように みんなが みんなで 愉快

に生きよう」と終わる。

私も、あなたも、「なんのために」と悩んではいないか。「なんのために」と自分を苛み、これから苛まれ続けるかもしれない問いが、そこにある。どうだろうか、「なんのために」と苛み続けよう。勇ましいことばなどいらない。「白い箱にて 故国をながめ」(『骨のうたう』)、帰ってきた竹内浩三は、「日本が見えない」と詠う。あなたには「日本が見える」か。「日本よ オレの国よ オレにはお前が見えない 一体オレは本当に日本に帰ってきているのか なんにもみえない オレの日本はなくなった オレの日本がみえない」…。もう一度言おう、あなたにはあなたの日本が見えるのか。日本の姿が見えているのか。恐ろしい日本の姿が、いま見えているか。(つづく)

三里塚の産直野菜

栄養の宝庫ニンニク



三里塚からニンニクが届いた。ニンニクは栄養の宝庫といわれる。抗菌、殺菌、血液サラサラ、疲労回復、美白効果、肝臓の働きをよくする等々 …、これは凄い。ニンニクの旨味と辛味は、とくに夏場の食欲減退に効果がある。梅雨時には、ニンニクの中心部から傷むことがあり、保存には注意を要する。保存法としては、醤油漬けにするかオイル漬けがおすすめとか。昔、中華料理店で食べた「蜂蜜漬け」が、とても美味しかった。自分で漬けてみたが、なかなかうまく出来ない。醤油漬けは、醤油に加えて煮切り酒を入れると、マイルドに味わいになる。ただし旨味が出るには、3カ月ほどかかる。醤油漬けニンニクのみじん切り入りチャーハンもお勧めだ。

※三里塚「産直野菜」は有機無農薬。「お試しセット」あり。(野菜のお問い合わせ) 三里塚関西実行委員会 (TEL/0799-72-5242)



日暮れて途遠し⑨

では、どうすればよいのか (上)

ジャーナリストの西谷文和さんが、5月3日発行『なぜ中東で戦争が終わらないのか』(かもがわ出版)を出版された。一般の人々が本や新聞で学ぶことには限界がある。実際の現地(戦場)を見て、その地の人々と交流して得た生きた情報は貴重だと思い、すぐ購入した。

認識の齟齬にショック

しかし、実は初っぱなからショックを受け、頭を抱えたのが正直な感想だ。「ハマスとはどういう組織か」「2023年10月7日の戦闘をどう理解するか」という最も肝心なところでの認識の齟齬である。以下、西谷さんの文面を紹介したい。

「ネタニヤフはパレスチナ(ヨルダン川西岸のPLO【ファタハ】とガザのハマス)の分断をはかるため、カタールからの資金をハマスに投入し、ハマスを育てた。ハマス民生部の学校や病院、モスクなどの社会福祉サービスに必要な資金は、湾岸諸国の援助もあるが、実はカタールとネタニヤフから出ている」とある。

「そんなことをしてネタニヤフの利点はどこにあるのか?」という疑問には以下のような説明がされる。「ネタニヤフは国際的な戦争犯罪人として、さらにばく大な汚職犯として首相を辞任するとなると即、逮捕である。そこでハマ스에テロを起こさせ、それをイスラエル軍が100倍にして報復してみせて、強い首相としての自分の存在感と人気を高めて、独裁の維持をはかっている」「ガザの次はヒズボラ、イエメン、そしてイランと常に戦争を継続させなければ自分の身、地位を守れない。司法を屈服させ、国民をあきらめさせ、汚職事件を風化させていくためには、とぎれない戦闘に協力してテロをおこなってくれるハマスが必要。ネタニヤフとハマスはもちつもたれつの関係」。

ハマスのやり過ぎ?

さらに2023年10月7日の戦闘については、西谷さんはこのように分析している。「ネタニヤフはさじ加減を間違えた。ハマスとの軌道修正のために

も、徹底的にガザを粉砕するだろう」と。10月7日のイスラエル人の犠牲もいたましいが、そのまた報復でガザせん滅には世界中の人々が心を痛めた。血まみれの子ども、ひきちぎられた女性

の遺体を見るのは耐え難い。

以下は私の気持ちだが、今ここであえてイスラエルの人々に言いたい。「あなたたちも今回は悲惨な犠牲を負ったが、ここに至るまでにその何万倍ものパレスチナ人民の悲惨を強いたのはあなたたちだ。今こそ、立ち止まって考えてほしい」。侵略国の日本人であるわたしたちも同じ立場だが、侵略国イスラエルとパレスチナの「暴力」は同じように見えるが、根本的に違うのだ。

「言論」と「非暴力」は可能か

西谷さんはさらに以下のように強調する。

「日本の左翼側の一部に『10月7日は仕方なかった。虐げられてきたハマスの奇襲攻撃はテロではなく抵抗運動だった』などと言う人がいるが言語道断である。間違いなくこれはテロで無差別殺人だ。ハマスの無謀なテロはネタニヤフにガザへのジェノサイドの口実を与えてしまった」「ハマスはとても罪深い武装集団であって1ミリも擁護するべきでない」「イスラエルの殺りくや残虐行為に対しては言論で抗議し、非暴力で抵抗すべきだった」。

私自身も確信ある路線を持っている人間ではないが、これはヒドイ!

戦火のガザに「言論の自由」があるのか。自分の家も畑も奪われ、家族が殺されても「非武装」でただ黙って見ているのか? そうすればどうなるか誰でも分かる。ガザ地区もヨルダン川西岸地区も消滅する。刻一刻と入植地は増えていき、イスラエルは全土を占領するだろう。パレスチナ人民は全員、シナイ半島にでも逃げていくしかないのか。それとも「民族浄化」論のユダヤシオニストの宗教的信念ど



おり全員消滅しろというのか。

「流された血の量」で兵器を宣伝

私と西谷さんの考え方には一部で相違はあるが、この本を読んで認識を新たにすることも多かった。今年1月上旬に、自民党中心の国会議員団15名が、ネタニヤフの金（招待）でイスラエルを訪問した。そこでの課題はイスラエルの最新兵器の購入・検討である。イスラエルは世界一の最新兵器の製造国といわれ、「売れ筋商品」は次の2種である。

1 点目は無人機（ドローン）の優秀性。その売り込み（宣伝）に「ガザでこれほどの成果（殺人のこと）を上げた」とネタニヤフが胸を張ったといわれている。

もう一点は、顔認証システム。以前はパレスチナ人が西岸の出入り口を通るときに、イスラエルの検問の通過に何時間もかかり、車は長蛇の列を強制さ

れた。救急車も例外ではなく、幾人もの病人や妊婦が死んでいった（殺されたのだ）。現在の検問は一瞬で終わる。なぜならイスラエルはパレスチナ人全員の顔データを認証システムにインプットして管理しているからである。世界で最も進んだ群衆監視システムをイスラエルは持っている。

見えない鉄格子の中に押し込められ、いつピンポイントで殺されるかわからない状態にパレスチナ人民はおかれている。兵器の性能を中東人民が流した血の量の多さで宣伝する「死の商人」たるイスラエルとアメリカ。イランの女子学生175人を虐殺しながら「誤爆」と居直る米軍。白人の侵略軍は「アラブ人はラクダは乗れても戦闘機は無理だ」と侮り、二級市民（劣等民族）と見ている。軽い命と笑っているのか。おそらく米軍は「見せしめ」として少女たちの死を使っただろう。（つづく）[朽木野リン]

「三島由紀夫事件」から56年

いまや「憲法改正」が目前に



映画『Mishima』公開当時のポスター（1985年）

三島由紀夫没後15年の1985年、ポール・シュレイダー監督、緒形拳主演の日米合作映画『Mishima A life in Four Chapters』が公開された。日本では、三島の夫人である平岡瑠子さんの抗議により上映されなかったが、昨年10月30日、東京映画祭で45

年ぶりに公開された。映画は随分以前にビデオを借りて観た記憶がある。内容は覚えていないが、緒形拳の演技が真に迫っていたのが印象に残っている。

三島事件が起きたとき、私は高校2年生。三島由紀夫の小説も読んだことはなく、どういう人物かも知らなかったけれど、ニュースで自衛隊員が演説する三島に野次を飛ばしていたのと、当時は発行されていた『朝日グラフ』が生々しい現場写真を掲載

していたのを憶えている。

三島は「楯の会」をつくった時点で、自衛隊に憲法改正の決起を促したが、たぶん受け入れられないだろうと見越していたのか。自身の死にざまを「切腹して見せる」という願望があったのかも知れない。

1970年11月25日、三島は楯の会のメンバー森田必勝、小賀正義、小川正洋、古賀浩靖の4名とともに陸自市ヶ谷駐屯地の総監室で益田兼利総監に「自衛隊を本館前に集合させよ」と要求書を送った。バルコニーに出た三島は、集まった自衛隊員を前に演説を始めるが、隊員から「ばか野郎」「ひっこめ」などの野次が飛ぶ。この様子はテレビニュースで放映された。三島は最後に「よし！俺は死ぬんだ。憲法改正のために立ち上がらないという見極めがついた。自衛隊に対する夢はなくなったんだ。それではここで天皇陛下万歳を叫ぶ」と言って皇居の方角を向かい、「天皇陛下万歳！万歳！万歳！」と三唱した。総監室に戻った三島は廊下で切腹したという。三島に続いて森田が切腹した。三島、森田の介錯は古賀が行った。

あれから56年。高校生の頃の私は、「憲法改正のためのハードルは高い、生きている間に憲法改正の発議はありえない」と思っていた。ところがいまや、日本は憲法改正目前の状況になってしまったのではないかと。（こじま・みちお）

まい・しよと 

長崎の友人を訪れた際に、長崎孔子廟（長崎市大浦町）で「変面ショー」を初めて観劇した。変面は中国の伝統芸能で、その仕掛けは「国家機密」と言われたことも。一瞬で顔が8変化する一人劇に観客から歓声があがった。長崎孔子廟は、『論語』の孔子が祀られている。1893年（明治26年）、中国の清朝政府と華僑によって建造された。（啓／撮影日：2026年5月20日）

詩

飛んでいく無人機



渡辺信雄

飛んでいく
 どの国からか
 幾万の無人機が空を飛んでいく
 町を壊し人を殺しにいくのだ
 ツバメがいつもの
 家の軒下に帰ってくる
 商店のアーケードに巣をつくる
 にぎやかな鳴き声
 軒の巣に餌を運ぶ
 鳴きながら待つ赤ちゃんたち
 ツバメは小さいが
 世界地図をもち
 争いを好まない

インフォメーション

■7月1日(金)

アジア労働者交流集会 in 神戸

～ 韓国・フィリピンから闘う仲間を迎えて ～

時間：午後1時半～

会場：神戸学生青年センター ウェスト 100

阪急神戸線六甲駅 徒歩1分

韓国から

「韓国民衆運動が直面する課題」

フィリピンから

「日本・フィリピンの軍事協力強化に反対する」

主催：アジア労働者交流集会 in 神戸 実行委員会

■7月4日(土)

日本の植民地支配と台湾の近現代史

時間：午後1時半 開場 午後2時 開始

会場：国労大阪会館 3階・大会議室

JR大阪環状線天満駅すぐ

講師：駒込武さん（京都大学大学院教育学研究科教授）

同時上映 「黒潮に抱かれて～与那国島と台湾～」

（制作／QAB 琉球朝日放送）

資料代：800円（学生半額）

主催：南京の記憶をつなぐ 2026

■7月19日(日)

第16回「日の丸・君が代」問題等全国学習・交流集会

時間：午前10時～午後4時半

会場：エルおおさか 6階大会議室

地下鉄谷町線・京阪電車 天満橋駅下車 西へ徒歩10分

午前：講演と質疑応答

講師：高橋哲哉さん（東京大学名誉教授）

「新自由主義から『暗黒啓蒙』へ

— 民主主義の危機に向きあう —

午後：全国各地や諸課題からの報告等

終了後デモ

参加資料代：800円

主催：第16回「日の丸・君が代」問題等

全国学習・交流集会実行委員会

■7月20日(月)

原発のない明日を市民の力で

時間：午後2時～午後4時半開会

会場：茨木市クリエイティブセンター

阪急京都線茨木市駅下車 徒歩15分

講師：井戸謙一さん（弁護士）

提言：木原壯林さん（若狭の原発を考える会）

全国原発立地地域からのメッセージあり

資料代：700円

主催：反原発自治体議員・市民連盟関西ブロック